

特116

686

阿

曹

6-6

272
809



始



47 116
686

阿漕 内巻之六ノ六

此曲前ハ開カニ後ハ確リ凄ミニ謡フヲ宜シトス節扱ヒ細キ所多ケレバ意ヲ留メテ謡フニト肝要ナリ

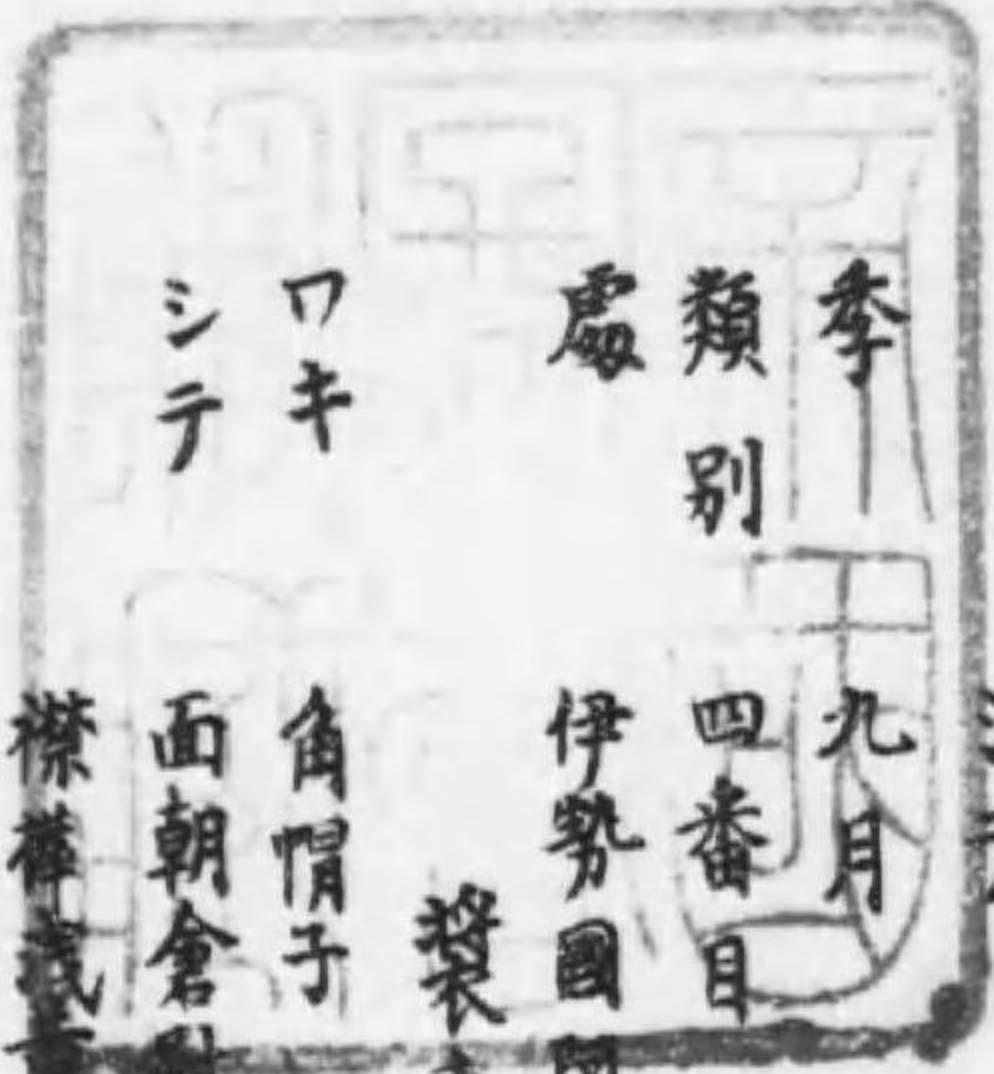
役別 ワキ

旅僧 (ワキ僧物續クトキハ男ニスルコトモアリ)

漁夫尉

後シテ

阿漕



季 九月
類別 四番目

伊勢國阿濃郡津阿漕浦

装束附

ワキ

角帽子 着附尉斗目 絁水衣 腰帶 扇 珠敷 (又直布男ニモ)

シテ

面朝倉尉(笑尉ニ) 尉髪 着附無地尉斗目 茶絁水衣 腰帶

後シテ

襟襦袢黄ノ類 尉扇指シ 釣竿持

後シテ

面瘦男 黒頭 鉾巻 着附尉斗目 絁水衣 腰袋 襟浅黄

二行表

扇指シ 網肩ガ

二行表

次第二段心づき一乃秋風はト静ニ是を九州名乗ハサラリト日に向ふ道行

六行裏

関カニ浪乃淡色濁ト開メル心通ふ多鳥乃ト元へ戻シ阿漕が浦子裏子きり返

六行裏

シ開メル心ト急外移トト氣ヲ變ヘサラリメニ謡フベシ

六行裏

一声二段波あらうてほげ障もあきトサラリト但シ位早キハ悪シ限らまト開メ

六行裏

ト世を流るあらひトサシハ氣ヲ替ヘテ悲トト開メル心トあくりきトト氣ヲカヘ

大正 5. 12. 8 内交

阿漕

釋
心づかぬあまの
月ぞもくあまの
是も九の日向に

國の若もてん我未伊勢太神宮よ

よまらびんわごよの思ひきて作

自よ向の國の浦舟こたあまの
乃塩路をりつくとあまの
後の法路

か。通。し。み。身。乃。色。ゆ。て。核。の。寤。え。
を。ま。あ。ら。う。ら。國。の。こ。若。の。言。て。除。
漕。浦。の。急。は。き。う。く。急。行。行。よ。
是。こ。も。ち。せ。乃。國。安。濃。の。郡。と。や。ら。ん。
申。人。物。自。人。と。お。侍。可。の。名。可。な。も。事。
名。と。思。ら。る。彼。あ。ら。で。ほ。ん。際。も。
あ。ま。あ。ぬ。衣。乃。あ。ま。ら。ん。と。限。ら。

ま。あ。ま。と。渡。の。あ。ら。ひ。我。一。人。の。
か。ら。福。も。せ。あ。て。の。職。を。と。あ。ま。
田。吏。を。あ。ら。ん。あ。く。儀。ま。ま。教。の。
家。の。ま。れ。明。言。物。の。命。を。教。ま。り。乃。
悲。さ。ま。あ。ら。ん。と。ま。の。教。の。由。の。
思。入。た。浮。中。の。こ。も。あ。て。の。福。の。人。ら。ん。を。
又。釣。の。出。る。あ。ま。の。具。は。成。射。殿。の。

尋ねて見ゆるのる 此方乃書きて
作か行むるもくもぞ 伊勢乃國よ
とりてもび浦さるぬ成り可とた
作ぞ此可とばはる漕ぐ浦と
中 毎き家乃あこ花うら
あそひまきるも古まのりまの海
あこまが浦よ網も度らあまは

頭乃まきりが様よ讀まはる
すも是も一うもあまら
極人可の和歌あれはなごか
て久し故者信の平そ
あこまが浦よ網も度らあまは
あまらか様よ後れあまら
あまらあまらあまら

名にらばあふもあこぎうらあか
しやくろ責も際あくて若らも度重
ある罪吊さを給や焚のりやい人
と語れもあまりきあこ死うら
名もらひ方のあき毎うらりの色とよ
錦本乃救積り子束の契り若おこ
れあこ死うたうらうら若らつ則清と

ゆえに具予人の悪妻あこぎくと
いひきんも責一人の度守めらうか
れまきうら吉花も若ら若ら若ら
から頭まきく執心の浦あまの義成
まきる値遇うれ一樹乃宿りをも
他生乃縁と團物をあふも前乃世
志値遇をもまきうら松陰子浦あま

を。雲。夜。目。も。夕。暮。の。塩。煙。ま。よ。
か。も。浪。火。の。陰。も。ほ。の。ろ。ろ。か。き。う。
め。て。海。邊。も。ろ。ろ。村。霧。か。も。吐。き。か。
手。繰。の。あ。ま。つ。あ。く。り。ま。り。う。り。か。
ろ。う。う。ま。ぬ。志。づ。む。び。か。ろ。う。り。も。俄。
よ。も。ち。て。あ。ら。う。ら。暗。く。の。こ。も。さ。き。
ま。よ。い。浪。も。ち。う。り。の。海。の。か。も。一。つ。う。
ヤ

せ。て。こ。も。う。も。し。う。た。こ。も。ま。さ。ぶ。聲。の。
波。も。あ。ま。ろ。う。り。あ。て。あ。ら。う。り。あ。く。
ま。よ。い。ま。り。く。さ。ら。う。ら。か。し。ね。と。
ま。よ。く。は。花。中。ま。よ。一。葉。乃。妙。あ。れ。
花。の。ひ。も。と。ま。よ。く。ま。よ。の。夜。れ。も。な。ら。ぶ。
終。り。ひ。う。り。あ。ら。う。ら。か。し。く。
あ。ら。う。ら。う。ら。ま。よ。い。虫。乃。我。ら。と。
ヤ

夢をたふあつめ世を恨み今宵
もく後あまそや磨の熱乃細は
まじひれぬよ邪よよと際ありと
夕月あれは宵よりやうく入塩乃
まぢをうへめと悲くは引細の
伊あも残もも松きみんは我の
そあこの海あこ地が塩あさりもせで

地又とる又の網わら母をい皇伊勢乃うと清
手諸乃くも地子社きより
法乃くも耳よまきけを心あ
上地罪をのきもちあまの後きつ
く猛火とあつやあらのやだ
かこや上青うらつる矢乃夢
かよや田果のめぐり来る火車よ

業つ母らび苔めく目らま入の地
獄も滅ありきく物うろ乃き
きや甲トシテ思ふもろあい
あやろの心あこぎが流うらな
ほ執心の心ひくあこた主訓
くつとわつる心く悪魚毒蛇とあ
く紅蓮大お蓮乃氷り牙とく

め骨城くまきさけの息の焦熱大
焦熱の焰きあり雲霧あち居よ
際もあまの眞の責も度重ある
あこ怨が浦の罪科をこびを
登極人よきまけの心やたび人と
てまの浪り入よきりまの
度了入よけ

270
262

復製不許



大正五年十二月五日 印刷
大正五年十二月十一日 發行

訂著者 觀世元滋

京都市上京區二条通麩屋町東北角

發行兼 印刷者 檜常之

印刷所 江川堂

東京市四谷區傳馬町貳丁目十九番地

(電話番町八六一)

(圓電話上二千百九十一番)

(振替貯金大阪三六草八番)



終

